

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970900508
法人名	有限会社 京阪奈総合保険事務所
事業所名	グループホーム ロイヤルケア24
所在地	〒630-0211奈良県生駒市桜ヶ丘3番57号
自己評価作成日	平成23年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路36番地 大和ビル3F
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(向こう三軒両隣の人情介護)を理念として、24時間安全安心の介護サービスを提供している一つの敷地内で介護保険各種サービスが提供できる(支援センター・訪問介護・デイサービス・介護タクシー・グループホーム)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自動車専用道路に面した広い敷地にある3階建ての施設で、1階がデイサービス、2・3階がグループホームになっている。「向こう三軒両隣」という合言葉のもとに、一人ひとりの個性や思いを大切に介護をしている。ホールや廊下にビデオカメラを設置したり、警備会社と契約するなど、安全面に配慮している。また、居間には空気清浄機に加え微酸性電解質を使用して空気を除菌し、感染症予防に心掛けている。ほかの施設で対応できなくなった重度の認知症の方も受け入れるなど、人情味豊かな介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(向こう三軒両隣の人情介護)を理念と掲げ24時間体制で利用者が安全・安心に暮らしていけるように社員一同取り組んでいる。	「向こう三軒両隣」という合言葉のもとに、一人ひとりの個性や思いを大切にされた人情味のある介護を目指している。職員は、理念をよく理解し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域の一員として自治会の行事には参加させて頂き、又、事業所で行う行事にも参加を呼びかけ、多数出席いただいている。(exみかん狩り、花見など)	自治会に加入し、清掃活動をはじめとする自治会の行事に参加している。事業所の行事には、自治会に案内をして、地域の人にも参加してもらっている。また、小学校の演奏会にも招待されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方や関係者には、昨年より取り組んでいます。又、近隣の店、隣のガソリンスタンドには理解をして頂き、支援をお願いしています	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月、11月と実施して市役所・地域包括センター・自治会長・民生委員・家族代表と意見交換会をした。	運営推進会議は市担当者や地域包括支援センター、民生委員、家族代表の参加をえて行われている。事業所の活動の報告、課題などが話し合われ、市からは来年度の介護保険の改正などの話が出されている。今後は、2ヶ月に1回の開催予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生駒市(介護保険課)と取り組み状況を伝えるとともに、困った時は相談窓口になっていただいています。	市の担当者とは情報交換をし、分からないことなどを相談し助言を得ている。月1回発行されている「ロイヤル新聞」も担当者に届け、理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけていますが、利用者の認知症の低下に伴い安全、安心を重視する事により、1階玄関を施錠し、センサーを設置している。	事業所は交通量の多い道路に面しているもので、安全のため玄関は施錠され、センサーもつけられている。ビデオカメラの設置や転落防止のベッド柵など、利用者の安全を第一に考えてケアに取り組んでいる。	現在行っているケアをもう一度振り返り、安全面を重視しすぎて抑制や拘束に繋がっていないかを職員全員で話し合い、身体拘束とは何かの理解を深める取組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の職員会議には、虐待防止に関しての研修を受講したり、又職場ないでの研修も行っている。24時間ビデオモニターも取り付けしている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、研修などで学び、個人の必要性は理解し必要時には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす場合は丁寧に説明を行い、その説明の中で分からない、疑問がある時は、いつでも応じ、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの中でも苦情窓口を設け、要望などあれば、それらを運営に反映させている。	利用者からの運営に関する意見は少ないが、日々の活動の中で希望を聞くようにしている。家族の要望については、主に面会時に聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、幹部会議を行い職員の意見や提案を取り入れ、話す機会を設けている。毎月末には全職員参加による全体会議をおこない、職員の意見は日常のケア面に取り入れている。	日々の活動の中で意見や要望は、直接リーダーやセンター長に伝えている。また、気づいたことは連絡帳に書き、回答を得ている。大切なことは、月1回の職員の会議で話し合っている。「利用者にとって一番良い方法」を心掛け話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社として給与規定を定め、職員に説明している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部の研修や社内の研修に参加してもらい、働きながら技術向上のためのトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設のカンファレンスに参加して、ネットワーク作りや交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報、本人との面談により情報収集を行い、現時点で困っている事、不安なこと、要望をお聞きし、本人の安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の意向を取り入れ、円滑な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を伺い、より良いサービスが提供できるように、他のサービスの利用も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩であると常に思い、そのような気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密にし、家族と本人との絆を大切にしながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の一部は、馴染みのお店に食事にてかけたり、又、職場での部下の方がホームに見えて、利用者との交流を定期的に行っている。	広い道路に面し、駐車場も広いので家族や知人が訪問しやすい環境にある。他の施設から転居してくる方が多いので、馴染みの場は少ないが、毎回利用している理容室や美容室があり、馴染みの関係ができつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に共同生活する中で孤立せず多くの人と関わりをもてるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居後もその後の状況を把握を出来る限り行い、入院先にお見舞いに行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の利用者様の意向を把握する為、職員同士、情報を共有している。たとえば、尺八を吹かなくなった利用者”尺八を聞きたいです”と話し、その日から部屋で吹いている姿があり、本人も自信に満ちた顔をされていた。	利用開始時に、本人や家族の希望を聞くようにしている。センター方式のアセスメントシートを活用し、「できること」、「できないこと」、「してほしいこと」など意向の把握に勤めている。	アセスメントシートにはADLだけでなく、本人の生活歴や生きがいなどをより詳しく把握し、職員が共有してコミュニケーションや介護計画に活かせる工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人の話をもとに、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については、常に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施状況に対するの評価・モニタリングの記録を残し、ケアの見直しに資料として活用して、本人・家族・職員と話し合いながら介護計画を作成している。	本人や家族の思いを聴き、職員の意見を参考に介護計画に反映させている。1ヶ月ごとにモニタリングをまとめ、3ヶ月ごとに介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多目的ホールでのリハビリ機器を使用した機能訓練ができる。要望に応じて、通院・送迎等のサービスを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との連携、消防との連携。ボランティアの方々との連携して安全で豊かな暮らしなどできるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回、山上内科の先生の往診を受けて、検査が必要な時は紹介状を書いて頂き、適切な医療が受けられるように支援している。	週1回、ホームのかかりつけ医である内科医の往診がある。歯科については、近隣の医院に通っている。その他の個々の病院への通院は、介護タクシーを利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいるので支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との連携を行い情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族、利用者の意向をお聞きしてかかりつけ医に相談している。終末期の対応は、現在そのような利用者がいないが、こちらで受け入れを行うつもりで日々、話あっている。	現在までに事業所内での看取りの事例はないが、ターミナルケアのマニュアルを作り、研修もしている。今後は本人や家族、かかりつけ医などと相談して、受け入れていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で実践講習会など行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難用のシューターを2・3階の食堂に設置している。又隣接する24時間営業のガソリンスタンドと消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。全員参加による訓練もしていくつもりである。	スプリンクラーや火災報知機の設置は完了しており、外部非常階段や脱出シューターも設置されている。夜間の非常時には、隣接する24時間営業のガソリンスタンド従業員の協力が得られるよう話し合われている。また、年1回共同の避難訓練を実施している。	避難訓練は年2回行い、その内1回は夜間想定訓練を実施することが望まれる。また、緊急避難の対応手順、職務分担を職員で話し合い、それを一覧表にして、常に確認できる所に掲示するなどの工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保に心がけている。たとえば言葉ひとつでも尊厳ある言葉、態度で接している。	女性職員に比べ男性職員数が多いが、トイレやお風呂などはなるべく同性介助を心掛けている。まず利用者の話を引き出し、傾聴して、生活歴や性格に配慮した言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望に添うようなケアを行い、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まか1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や身だしなみへの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事の片付け、野菜を洗ったりなどは、一緒に行っているが、調理が出来る利用者はいないので行っていない。	食事介助が必要な利用者が増えているので、職員の数を増やしてゆっくり食べていただくようにしている。月1回は外食をしたり、駐車場横の畑でつくった野菜も食卓に提供するなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量・水分量は記録し一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの徹底と口腔内の状態の観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室には夜間用としてポータブルを用意して自立に向けた支援を行っている。又、夜間はオムツの人でも、昼間はリハビリパンツに努めている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、昼間はオムツははずし、リハビリパンツにして適時トイレ誘導をしている。夜は、ポータブルトイレを使える人は部屋に設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し飲食物や運動で改善されない場合は、薬の内服などの対応をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日と時間は決まっているが、本人の体調や気分によって配慮している。	週2回、午後の時間帯に1階の広いお風呂に入っている。そのお風呂は、石から出る成分によって温泉気分が楽しめるようになっている。ゆっくり楽しく入れるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンがあり、休息や安心した眠りができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理しており、服薬の支援と症状の変化は把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って活動的な生活を送って頂けるよう、又気分転換にドライブや散歩、カラオケなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間の許す限り、買い物、外食など戸外に出かけられるように支援している。又、家族からの申し出により、外出、外泊で気分転換をはかる事もある。	比較的重度の利用者が多いため、外出の機会が少ないように思われるが、同じ敷地内にある多目的ホールに毎日のように出かけている。天気のよい日は、芝生の庭のベンチのところや畑に行ったり、外食や買い物に出かけたりしている。	外出チェック表等をつけ、意識して利用者の外出を支援する取組を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者はいない為必要時は預かり金の中で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺菌・加湿・空気清浄機の設備がされている。又居間兼食堂の一部が畳部屋になっており、冬はコタツを置き季節感を採り入れ、居心地良く過ごせるように工夫している。	居間は、テーブル席やソファ、畳スペースもあってゆったりとしているが、装飾品や季節の花などがなく、とてもシンプルである。広い窓があって、外の景色を楽しむことができる。感染予防のため、空気清浄機や微酸性電解質を使用した除菌装置を設置している。	居間にはもう少し季節感が感じられる花や装飾の工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活リズムに合わせて、一人になりたい時や利用者同士で過ごしたい時、自由に生活して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具や生活用品を入れており、安心した生活が送れるように支援している。	安全のために、居室内に持ち込む品物を少なくしているためか、飾り気がなくシンプルすぎるように思われる。	居室の入り口には小さなネームプレートだけなので、認知症の利用者には、分かりづらいように思われる。また、居室に持ち込む品物については、利用者や家族とよく話し合い、個性的で居心地よく暮らせる工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせ、安全な導線作りや又、自立した生活が送れるように対応している。		